

一太郎活用クラブ

☆「Excel との相性が良いから」とかいても、だからといって Word 全盛という潮流は学校には来ないようです。そこにはそれなりの理由があるのです。岸は根っからの一太郎ファン。その理由をそっとお知らせしましょう。

巻の一 レイアウト枠の機能に注目!

レイアウト枠は、文書中に自在に設定できる「透明シート」のようなもの。このシートは、何枚でも重ねられるので、自在な表現が可能です。また本文の書式とは別に文字サイズや行ピッチなどを自在に設定できるので、文書の体裁やバランスを重視した、美しい原稿ができあがります。

左にあるのがレイアウト枠。

レイアウト枠は、本文の文字ピッチとは独立しているので、文字サイズを大きくしても、本文の体裁に影響はありません。「一太郎の上に一太郎が乗っている」というイメージです。

→ 国語科などのテスト作りで、「問題の本文」と「設問」を分けるのに都合がよいと思います。

・大事なことは、本文から浮き出すように、フォントやサイズを変えて表現できますね。

大昔から船乗りたちは、船がクジラの群れに近づくと、低く不気味な音が船底にこだまするのを知っていた。彼ら

はそれをクジラの鳴き声だと信じていた。
しかし、当時の研究者がいくらクジラの体

を調べても、声を出すために必要な声帯は見つからなかった。

ご存知でしたか? レイアウト枠は、連動して表示できるということ

レイアウト枠同士をリンクさせることで、「流し込み」の手間が省けます。

- ・先頭の枠から文字を削除すると、後の枠もそれに従って、表示される文字が繰り上がっていきます。だから、「削って浮いた分を後から埋め戻す」という手間がありません。
- ・枠はそれぞれ独立して位置を変えることができます。もちろん大きさを変更するのも自由です。
- ・画像を背景にして、生徒の感想を流し込みたい場合などに便利です。画像、背景にしましょうよ。
- ・この行のように一行の文字数があまり多いと、行の終わりから先頭まで視点が移動するときに、迷ってしまいますね。ここにあげた連動機能を使って、視点の移動距離を減らしませんか。読み手が楽ですよ。(段組という方法もあります。これについては、またいつか。)